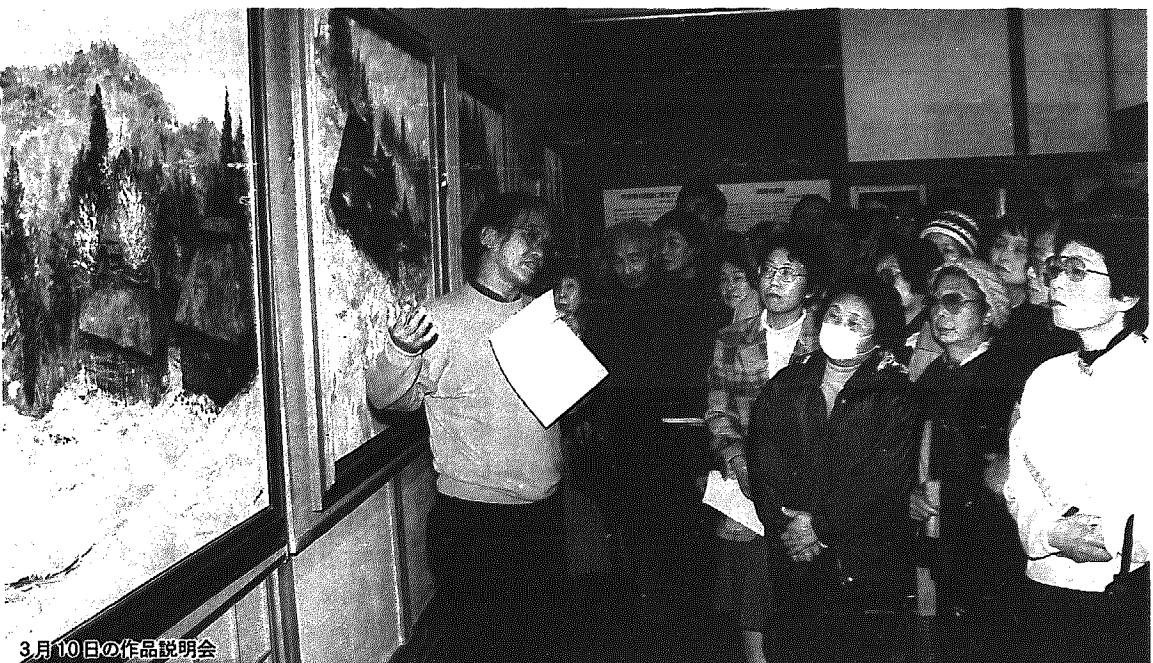


多くの観客が消えゆく雪国の民家を観賞する

町では、消えゆく雪国の民家を描き続ける、早津剛先生の展覧会「雪国の民家 早津剛展」を、雪梁舎と新潟日報社との共催で行いまし...

町では、先生が描いた五十号の油絵「緒立の家」完成を契機に、雪国の民家の水墨画や油絵を多くの方から鑑賞し...

外からの六千人を超える入場者で賑わいました。授業の一環として鑑賞に訪れた木場小学校の児童からは「墨絵を見て、一番大きい絵はすごいなあ...



3月10日の作品説明会



北部地区公民館で行われた講演会



中ノ口沿線美術館も行われた

入館者の一言

早津剛展を観て

荻野久仁子

厳寒の二月二十一日、その日二度目の早津先生御自身による作品説明会の時間に合わせ会場へ行きました。雪梁舎美術館での作品展は、建物...

黒埼町の今昔

執筆 宮田栄門

(先月号の続き)

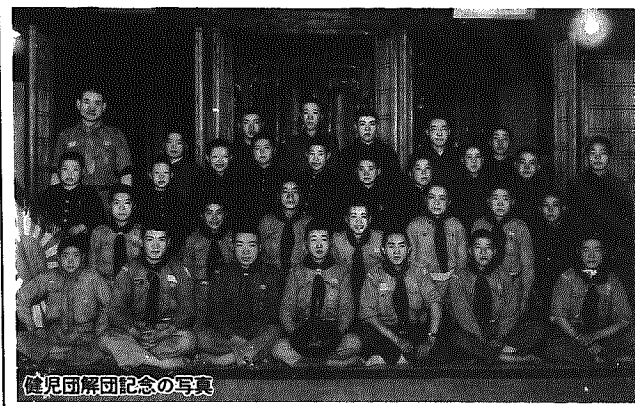
池の水の色も気味悪く、蛇もたくさんいて昔から何か主が棲んでいるなどという言い伝えもあった。以下は星野少年の大蛇騒動体験談(方言で喋られた)である。「池のはたねテントを張って、夜中の何時ごろだったか知らんどもいい気持ち寝ていたが...

新聞からたどる黒埼の歴史(三)

健児隊長は訓練として夜中や明け方に非常呼集をかけた。全隊員を集めた。

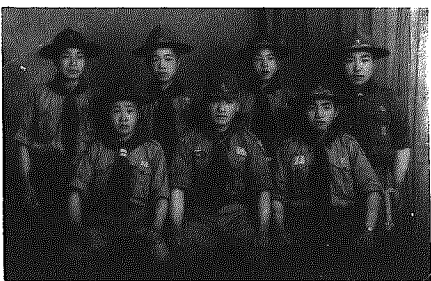
一、健児団の非常呼集 静応隊長は訓練として、何時とはなしに、夜中や明け方に、突然非常呼集をかけて全隊員を集めた。「集合場所は大野小学校の運動場、時間〇時〇分、すぐに連絡するよう」と、寺のお庫裏に寝ている静恵はまっさきに起きた。静応隊長の非常呼集の目的は、突発的な風水害等の災害時を想定してのものだった。電話のま...

どうしても一軒一軒と隊員の家を起して回らなければならぬ。まず、寺に一番近い森田君の家の戸をたたいて起こすと、次は田辺さんの家へ行き、だんだん大勢になると手分けして、大野の隊員たちを起ししながら小学校へ行った。学校では静応隊長が、全隊員集合までに何時間かかっ...



健児団解散記念の写真

か、タイムを計っていた。全員の集まったころには、そろそろ登校してくる生徒もあり、大野の隊員は家へ朝食を食べに行き、静恵たちは大急ぎに金巻に帰って朝めし



健児団の非常呼集

一、つらかった山際さんの体験談

聞念寺の住職故本多敏磨師から「健児団のことはよくわからないが、八区山際寅作さんが先代(静応師)に頼まれて、どこか県外へ健児団の講習を受けに行かれて、いろいろ苦労をされたそうだと聞き、早速山際さんに取材した。山際さんは、もう五十年以上も昔のことではっきりとした年月等は覚えていないが、たしか昭和十四、五年ごろ、どうしても御いんじよさまに頼まれて行ったことがあるという。それは長野県蓼科高原で、全国から何千人もが集まり、三泊四日の日程で開かれた健児団指導者研修会だった。「私が少しでも健児団に対する知識や、指導の経験

でもあればよかったのだが、全く知らずに突然いろいろのことをさせられて、いやはや大変な目にあいました」と、今でも忘れられない、つらい体験だったと話している。一、隊員の奉仕作業等 健児団の予算の少ないことを知っている隊員たちは、大野七区の八枚屋や、新町の伊田麩屋から麩を、諏訪町の阿部ホテテテから化粧品や日用品などを安く売ってもらい、大野の隊員は大野の町へ、金巻の隊員は金巻や興野へ商品を手売りして、また走って学校へ行った。

健児団の解散

昭和十一年、金巻聞念寺大谷健児団結団当時の入団者は前記の二十六名位だったようである。そして在団期間の長い人は健児団解散の日までいたが、中には一、二年でやめていく人も多かったという。団員たちの活動している姿や、集合写真等の資料を八手手をつくして探したが見つからなかった。しかし、幸いにも元健児団員の星野静恵さん(後のボーイスカウト黒埼

隊長)のもとに、昭和十六年五月十四日の夜、聞念寺道場で撮った、聞念寺大谷健児団解散記念の写真があった。写真には、今は幻の日本海軍の軍艦旗をデザインしたと思われる旭日の健児団旗と、壮年のころの静応隊長の元気な顔も見える。また、健児団にこがれて入ったのだから、まだ幼い学生服姿の内藤昌治(諏訪町)、加藤(七区、高橋清(仲町)、海津三夫(七区、渡辺寅三郎(八区)、高橋武(仲町)、宗村多四郎(五区、青木健三(仲町)、加藤登(七区)らが先輩の団員に真似てネッカチーフを首に巻いたりして写っている。注 前記の外に団員だった人が居たかも知れないが、これしか分からなかった。この写真に写っているのは、昭和十六年の解散までいた人たちである。 団の一番先輩である、石川久四郎、小松秀雄の二人が解散後間もなく始まった太平洋戦争で戦死したことは前に記したが、戦局が次第に激化するにつれ、先輩格の隊員だった人たちが大半が出征し、解散記念の写真に写っている当時十二、三歳位の子供たちの何人かは、その数年後國のために、陸海軍の少年兵を志願して出征した。(続く)